

COVID-19 ワクチンへの信念が警告ラベルの有効性に与える影響

○陳 晗 (CHEN Han)、竇 雪 (DOU Xue)

Keywords : フェイクニュース、警告タグ、SNS、警告効果、COVID-19 ワクチン

1 目的

本研究では、フェイクニュース対策の一つとして使用されている警告ラベルの有効性が、閲覧者が本来持っている信念によってどのように変化するかについて、オンライン実験を通して明らかにする。近年では、COVID-19 の流行に伴って、恐怖感情の増幅を意図したフェイクニュースも多くなっている。その対策の一つとして、検知されたフェイクニュースについて、このニュースがフェイクである可能性を指摘した「警告ラベル」をつける動きが海外を中心に出来た。しかし、警告ラベルによる利用は、フェイクニュースの信頼性を高めてしまう「バックファイア効果」を引き起こす可能性もある。特に、警告ラベルが読み手の信念と一致するニュースにつけられた際には生じやすいと言われている(Nyhan & Reifler, 2010)。先行研究では多くの場合政治に関するニュースを取り扱っていたが、バックファイア効果は、健康に関するニュースにも当てはまると考えられる。そこで、本研究では COVID-19 ワクチンを題材として、ニュースの閲覧者が本来持っているワクチンに対する信念が警告ラベルの有効性に与える影響を検討する。

2 方法

2022年2月に Web 調査会社を介して 20~60 歳の日本人を対象に、オンライン上で参加者間実験を行なった。まずスクリーニング調査にて、年齢、性別、Twitter 利用頻度と新型コロナウイルスのワクチンに対する信念(ワクチンの利用に不安を感じるのか、ワクチンは健康に悪い影響を与えるのか、ワクチンは社会的に好ましい技術であるか、国はワクチンの利用を積極的に受け入れるべきか)について回答を求めた。この調査で月一回以上 Twitter を利用していると回答した参加者を対象に本調査を行い、最終的に 559 名の回答を得た。参加者はランダムに警告ラベルあり群と警告ラベルなし群に分けられ、2 つのフェイクニュース見出しを閲覧した。F1 (「塩素はコロナを阻止する可能性がある」) はコロナの危険性を過小評価する内容であり、F2 (「ワクチン接種が変異ウイルスを生み出した」) はワクチンに対して批判的な姿勢を示すニュースであった。閲覧後、参加者は各ニュース見出しに対して、信憑性(信用できるか、本物であるか、正確であるか)、面白さ、自分との関わり、以前読んだことの有無について個別に回答した。

3 結果

一般線形モデル (GLM) を用いて分析した結果、警告ラベルと信念の主効果が見られた。具体的に、ラベル付き群の方 (F1: $M = 1.85$, F2: $M = 2.12$) が、ラベルなし群 (F1: $M = 2.07$, F2: $M = 2.33$) よりニュースの信憑性を低く見積もっていた (F1: $F(5, 529) = 7.96$ $p < .01$, F2: $F(5, 520) = 6.18$, $p < .05$)。ワクチンに対する信念の主効果については、ワクチンが悪いという信念を持っている人ほど、二つのフェイクニュースの信憑性を高く評価する傾向があった (F1: $F(5, 529) = 13.27$, $p < .001$, F2: $F(5, 520) = 27.75$, $p < .001$)。加えて、F2 の場合、信念尺度のうち、「ワクチンは健康に悪い影響を与えるか」の項目と警告ラベルの間で交互作用が 10%水準で有意傾向が見られた ($F(5, 520) = 2.98$, $p = .09$)。具体的には、事前にワクチンは健康に悪くないと思っている人の場合、警告ラベルの有無によってフェイクニュースの信憑性は変わらなかった。一方で、事前にワクチンは健康に悪いと考えている人ほど、全体的に、フェイクニュースの信憑性が高くなる傾向があったが、その傾きについては、ラベル付き群はラベルなし群より有意的に小さくなった。いわゆる、警告効果がラベル付き群ではより顕著に見られた。

4 結論

今回の結果から、参加者は警告ラベルが付いているニュースの信頼性を低く見積もりやすく、全体的に警告タグの有効性が確認された。これは筆者らが行った先行研究と同様である(陳・竇, 2020)。また、自分の信念とニュースの内容が一致していると、そのニュースの信憑性を高く見積もることもわかった。一方で、自分の信念と一致しないニュースに警告ラベルが付けられた場合、そのニュースに対する信憑性も低められていた。すなわち、今回はバックファイア効果が見られなかった。その原因については、ワクチンは健康に悪いと考えている人ほど、F2 のようなワクチンに関するニュースに敏感であったため、システムティックな情報処理をし、結果として警告ラベルの効果を受けやすかったと考えられる。

【主要参考文献】

陳 晗・竇 雪 (2020). フェイクニュースに対する警告タグは有効なのか—日本大学生を対象とした検証— 第 42 回情報通信学会大会. <http://www.jsicr.jp/doc/taikai2020/spring/B2.pdf>
Nyhan, B., & Reifler, J. (2010). When corrections fail: The persistence of political misperceptions. *Political Behavior*, 32(2), 303-330.

【謝辞】

本研究は電気通信普及財団 (The Telecommunications Advancement Foundation) の助成を受けたものです。